

## 秦野市都市農業振興計画（案）のパブリック・コメントの実施結果について

### 1 意見募集期間

令和8年2月17日（火）から3月18日（水）まで

### 2 意見募集の周知方法

広報はだの2月15日号、市ホームページ及び市LINE

### 3 公表方法

- (1) 市ホームページへの掲載
- (2) 公民館、図書館及び駅連絡所における閲覧
- (3) 本庁舎行政情報閲覧コーナーにおける閲覧
- (4) 農業振興課における閲覧

### 4 意見提出方法

郵送、FAX、電子メール、電子申請及び持参の方法による

### 5 提出された意見の内容及びその取扱い等

内容分類（例）	件数	意見等への対応区分（※）				
		A	B	C	D	E
1 はじめに	0	0	0	0	0	0
2 現状と課題	3	0	0	1	1	1
3 秦野の農業の将来像	0	0	0	0	0	0
4 施策の展開	16	0	4	10	2	0
5 計画の推進に向けて	0	0	0	0	0	0
計	19	0	4	11	3	1

#### ※ 意見等への対応区分

A：意見等の趣旨等を計画案に反映したもの

B：意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの

C：今後の取組において参考とさせていただくもの

D：計画案に反映できないもの

E：その他（感想、質問等）

## 「秦野市都市農業振興計画（案）」に対するパブリック・コメントに寄せられた御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
1	2 現状と課題	9	農地の減少や荒廃農地の増加が進む中で、農業政策と都市計画の連動が重要と考えます。しかし本計画ではその関係性が十分に示されていません。用途地域や開発抑制、公共施設再配置などと農地保全を一体的に捉え、都市政策として位置付ける必要があると考えますがいかがでしょうか。	D	農地の用途や開発については、P38に記載している「農業振興地域整備計画」において方向性を定めているため、その中で、都市政策との連動を図っていきます。
2	2 現状と課題	10	荒廃農地（100 <del>ha</del> 以上）の増加に対して、現状は100名いないボランティア等に依存した対策が中心となっていますが、担い手の高齢化を踏まえると持続可能性に課題があります。他の市町では草刈りを有償ボランティアで成果をあげているところもあると聞き及んでおります、事業化・予算化するべきではないかと思っておりますいかがでしょうか。関連して、JAを筆頭に委託や法人・組合法人の立ち上げなど、継続的に管理できる仕組みへの転換が必要と考えますがどうでしょうか。	C	担い手不足が課題となる中で、有償ボランティアによる取組は、有効な手法の一つであると考えます。しかし、実施方法や継続性の確保など、課題もあることから、他自治体の取組状況や効果を把握しながら、必要に応じて研究していきます。
3	2 現状と課題	22	すべての農地を維持することは困難な状況にある中で、優先的に保全すべき農地を選定する考え方も必要と考えます。横須賀では中学生の社会体験を兼ね、竹林整備し良質なタケノコを収穫・販売し、省力化をしている農家もいると聞く、本市の高校生や大学生にも地域の農業・産業に触れる機会を提供できる事は良い影響をもたらすと考えます。各地の様々な事例を活かし、農地のゾーニングや重点区域の設定により、効率的な対策を講じるべきと考えますが、そのような方針はあるのでしょうか。	E	優先的に保全すべき農地については、「農業振興地域整備計画」において、農用地区域（青地）として定めています。しかし、現状では、農用地区域としている農地の一部が荒廃化している状況にあります。そのような中で、農地を維持するため、観光農園の一形態である農業体験の提供を図る農園は、有効な手法となります。観光農園の開設に当たり、必要な経費を支援している観光農園開設スタートアップ支援補助金について、令和8年度から既設農園の拡大にも適用する予定であることから、農業者の意向を踏まえ、支援を図っていきます。

### 【区分】

- A: 意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B: 意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
 C: 今後の取組において参考とさせていただくもの D: 計画案に反映できないもの E: その他(感想、質問等)

## 「秦野市都市農業振興計画（案）」に対するパブリック・コメントに寄せられた御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
4	4 施策の展開	31	「★（仮称）準農家制度の活用及び周知」とあるが、農業従事者の高齢化が深刻化する中、「はだの2030後期基本計画案」における多様な人材の活躍と連動し、定年退職者や副業を希望する市民に対する就農支援や農地マッチングをより積極的に推進し、多様な担い手を確保すべきと考えるがどうか。	C	多様な担い手の確保に向け、本計画において新たに、小規模な農地を借りて農業を始められる「セミファーマー（準農家）制度の活用及び周知」を取組として追加しています。（P31） 農地バンクを活用したマッチングとともに、この制度を活用する方に対しても、積極的に農地のマッチングを進めていきます。
5	4 施策の展開	31	新規就農者の支援については記載されていますが、特に6年目以降の経営安定に向けた具体的な支援内容が不明確です。 自立できた方がたの実例や共通点などもうまく伝わればよいと思う。 販路確保や所得向上、経営規模拡大などの観点から、どのような技能や成果を目指すのかを数値目標として示すことが重要と考えます。 持続的な担い手確保のため、指標設定するべきと考えるがどうか。	C	経営開始6年目以降の農業者については、本計画において新たに、「定着新規就農者」として位置付け、取組を記載しています。（P32） 今後、該当する農業者のニーズを捉えながら、具体的な支援や数値目標について、検討していきます。
6	4 施策の展開	33	「★スマート農業の実践」とあるが、労働力不足を補うため、ドローンやAIを活用したスマート農業の導入に対する初期投資支援策を講じ、効率的で持続可能な農業経営モデルを市内に構築すべきと考えるがどうでしょうか。	C	スマート農業は、慢性的な人手不足の解消、作業の省力化につながる有効な手法と考えています。 本計画において新たに、取組を位置付けています（P33）ので、秦野市農業協同組合などの関係団体と連携し、農業者のニーズを把握するとともに、支援のあり方を検討していきます。
7	4 施策の展開	33	スマート農業の推進が掲げられていますが、導入規模や目標が不明確です。 導入件数や対象面積などの具体的な指標を設定し、進捗を管理する必要があると考えますがどうでしょうか。	C	スマート農業は、本計画において新たに、取組を位置付けています（P33）ので、秦野市農業協同組合などの関係団体と連携し、農業者のニーズや支援のあり方を検討するとともに、併せて、指標設定についても検討していきます。

### 【区分】

A: 意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B: 意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
C: 今後の取組において参考とさせていただくもの D: 計画案に反映できないもの E: その他(感想、質問等)

「秦野市都市農業振興計画（案）」に対するパブリック・コメントに寄せられた御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
8	4 施策の展開	33	農業所得の向上について方向性は示されていますが、具体的な目標が示されていません。作物別や経営類型別の所得目標を設定することで、実効性のある施策につながると考えますが、数値目標設定など示されてはどうか。	D	所得目標については、「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」において、認定農業者及び新規就農者の目標値を定めており、併せて、所得目標を達成するための営農類型別の指標例を記載しています。（P67以降に資料として記載）
9	4 施策の展開	35	農福連携については有効な手法であり、地域課題の解決にも資するものと考えますが、現状では事業規模や目標が明確に示されておらず、計画としての実効性に課題があると感じます。 特に担い手不足が深刻化する中で、農業分野と福祉分野の連携は、労働力確保のみならず、地域コミュニティの維持や多様な人材の活躍の場の創出という観点からも重要性が高まっています。 今後は、参加人数や事業件数、受入農家数などの具体的な指標を設定し、段階的に拡大していく仕組みを構築することが必要ではないでしょうか。 また、単なる作業支援にとどまらず、農業技術の習得や就労支援につながるような仕組みづくりについても検討すべきと考えますがいかがでしょうか。	C	農福連携については、社会福祉協議会と連携し、担い手となる農家と知的障がい者施設とのマッチングを中心に継続しているところであり、一定の仕組みが構築されていると認識しています。 なお、「表丹沢魅力づくり構想」において、成果指標を設定し、進行管理しているところですが、協力事業所が増えない現状があり、まずは現在の協力事業所との関係性を維持していきます。
10	4 施策の展開	34	地域営農の活性化において、近年深刻化する病虫害対策の位置付けが不足しています。カメムシ対策（スタークル剤等の補助）、クビアカツヤカミキリの警戒・即応体制、茶のカイガラムシ対策などを明記し、地域農業を守る基盤施策として位置付けるべきと考えますが、御見解を伺います。	C	病虫害対策については、「経営改善計画達成に向けた資本整備等に係る支援」、「認定新規就農者の育成・経営安定化支援」（P31）の一部として取り組んでおり、令和8年度においては、クワシロカイガラムシとイネカメムシに対する支援を実施する予定です。 施策としての位置付けについては、いただいた御意見を参考に、営農への影響を見極めながら、次の見直しにおいて検討していきます。

【区分】

A: 意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B: 意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
C: 今後の取組において参考とさせていただくもの D: 計画案に反映できないもの E: その他(感想、質問等)

## 「秦野市都市農業振興計画（案）」に対するパブリック・コメントに寄せられた御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
11	4 施策の展開	35	鳥獣被害対策については捕獲や防除が示されていますが、成果を測る指標が明確ではありません。 丹沢のツキノワグマも40頭から80頭になり、農業者もイノシシ・鹿以外の脅威にさらされています。 被害額だけでなく、被害面積や被害率などを指標として設定し、対策の効果を検証することも重要だが、地元の農業者の再生産にかける思いを汲んでいくこともとても大切です。 科学的根拠に基づく農業の在り方、対策に今後どう向き合っていくのでしょうか。	C	御指摘のとおり、エビデンスに基づく指標設定は重要であり、より良い成果指標について検討するとともに、今後の対策につなげていきます。
12	4 施策の展開	40	農地の防災機能について言及されていますが、具体的な制度設計が不足していると感じます。災害ゴミの仮置き場や災害時の一時避難地や食料供給拠点としての活用など、農地の防災資源としての位置付けを明確にし、農業者との協定・待遇などを含めた仕組みづくりを進める必要があると考えますがいかがでしょうか。	B	農地の防災機能については、災害時における復旧用資材置場等に活用するため、秦野市農業協同組合と協定を締結し、防災協力農地の登録を進めており、「防災協力農地への活用」として、取組を記載しています。（P41）
13	4 施策の展開	41	地下水資源の保全については記載がありますが、農業との関係性が十分に整理されていないと感じます。特に本市は名水の里として地下水資源に恵まれており、その涵養に農地や農業活動が大きく寄与している点は、単なる農業政策を超えた重要な都市資源であると考えます。一方で、農地の減少や荒廃農地の増加は、この地下水涵養機能の低下にもつながる可能性があり、長期的な水資源管理の観点からも看過できない課題です。今後は農業を地下水涵養機能の担い手として明確に位置付け、涵養量や保全効果の評価指標を設定するなど、環境政策と統合した施策として推進する必要があると考えますが、いかがでしょうか。	C	いただいた御意見を参考に、計画の進行管理を進めていく中で、検討していきます。

**【区分】**

- A: 意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B: 意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
C: 今後の取組において参考とさせていただくもの D: 計画案に反映できないもの E: その他(感想、質問等)

## 「秦野市都市農業振興計画（案）」に対するパブリック・コメントに寄せられた御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
14	4 施策の展開	41	地下水涵養など農業の環境機能が示されていますが、脱炭素や環境政策との統合が不十分と感じます。 農地を炭素吸収源や水源保全機能として評価し、環境政策と一体的に推進することで、名水を活かした農産物等の応援や農業の新たな価値創出につながると考えますが、その位置付けについて見解を伺います。	C	農地の持つ多面的な機能を有効活用するため、「水田かん養事業への活用」は、環境・農業分野において重要な取組であると認識しています。 担当部局を含め、今後の取組を検討する際の参考とさせていただきます。
15	4 施策の展開	43	地産地消の推進が掲げられているものの、具体的な数値目標が示されていません。 地域経済循環の観点からも、地産地消率や学校給食への市内農産物供給割合などをもっと明確に設定し、成果として検証していく必要があると考えます。 取組の可視化と継続的改善のため、数値目標を設定するべきと考えるがどうか。	D	地域の地産地消率については、流通経路が多様であることから、地域全体として把握することは難しく、統一的な算出方法も確立されていません。 なお、学校給食における地場産率については、「秦野市食育推進計画」に位置付けられているため、本計画では、数値目標は設定していません。
16	4 施策の展開	43	「★有機農業など、環境にやさしい農業の実践」とあるが、地下水のかん養など農業が持つ多面的機能を市民に広く周知し、環境に配慮した農法（減農薬・有機農業）で生産された農産物のブランド化と地産地消を推進することで、農業者の所得向上を図るべきと考えるがいかかでしょうか。	B	環境にやさしい農業の実践については、令和7年度に、秦野優良農産物等登録認証制度の見直しを実施し、令和8年度から化学肥料、農薬の使用量を低減した農産物及び農産加工品を認証する制度に運用を変更する予定です。 認証品を市民に広くPRすることで、地産地消の推進や農業者の所得向上につなげていきたいと考えています。

### 【区分】

A: 意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B: 意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
C: 今後の取組において参考とさせていただくもの D: 計画案に反映できないもの E: その他(感想、質問等)

## 「秦野市都市農業振興計画（案）」に対するパブリック・コメントに寄せられた御意見・御提案等

No.	該当箇所	該当ページ	御意見・御提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
17	4 施策の展開	45	「特産農産物加工施設の設置・活用の促進」とあるが、食料安全保障の意識が高まる社会情勢を踏まえ、地元農産物を活用した加工品の開発や、観光農園（アグリツーリズム）の推進に対するICT活用やマーケティングの伴走支援を強化すべきと考えるがいかがでしょうか。	B	はだの市民農業塾において加工セミナーコースを設定するほか、専門家による6次産業化相談事業を実施するなど、農産物加工希望者のマッチングを図っています。 また、アグリツーリズムについては、農園ハイクの実施や観光農園マップによる周知を図っているほか、要望の多かった大型バス停留所の確保を進め、新たなニーズにつながるなど、今後も伴走支援に努めていきます。
18	4 施策の展開	48	観光農業の推進については方向性が示されていますが、具体的な成果指標がありません。観光農業を秦野市として伸ばす計画があるなら、来訪者数や体験件数などを指標として設定し、地域活性化につなげる必要があると考えますが、また農業振興地域には建物や公設トイレが少ないので対応策（トイレカーと授乳施設等）が求められると思いますがいかがでしょうか。	B	いちご狩りや掘り取り観光などを含めた、体験型農業入込客数を重点施策として位置付けています。（P49） 農業振興地域では、設置場所の確保や維持管理などの課題もあることから、現時点では、近隣の公共施設の利用をお願いしています。
19	4 施策の展開	50	「学校給食における安全・安心で新鮮な地場産農産物の使用率向上に向けた関係機関との連携」とあるが、子どもたちへの食育や市民の健康づくり（ウェルビーイング）の観点から、学校給食への地元農産物の利用拡大とともに、市民農園の利便性向上（トイレや休憩所の整備等）を計画的に進めるべきと考えるがいかがでしょうか。	C	学校給食への地元農産物の利用については、農業者団体からの供給のほか、中学校給食については、秦野市農業協同組合からの供給がなされており、今後も利用拡大に向け、働きかけていきます。 市民農園の利便性向上については、農園組合が管理するふれあい農園は一定の整備がなされていますが、コミュニティ農園やさわやか農園については、整備等に向け、各事業者に働きかけていきます。

### 【区分】

- A: 意見等の趣旨等を計画案に反映したもの B: 意見等の趣旨等は既に計画案に反映されていると考えるもの  
C: 今後の取組において参考とさせていただくもの D: 計画案に反映できないもの E: その他(感想、質問等)